

標準コスト見積りシステムの導入検討・手順

【日本コストエンジニアリング株式会社】

◆手順1) 導入目的の確認

標準コスト見積りシステムは、顧客要求による引き合い時点での合理的なコスト算定用（SCS）として、設計部門でのコストシミュレーション用（DCS）用として、生産技術部門では加工工程別のスケジューリング、目標工数算定や差額改善測定ツール（ECS）として、購買部門では発注先に対する適正な価格査定からの指値、価格交渉のツール（PCS）として活用されます。ここでは、いずれを目的にシステム導入をするかを明確にします。

販売コスト基準（SCS）、設計コスト基準（DCS）
製造コスト基準（SCS）、調達コスト基準（PCS）

◆手順2) 客観性の確認・検討

標準コスト見積りシステムは、上記の目的別にそれぞれ管理思想やツールの基準構築思想により搭載しているデータベースの内容及び扱う、客観精度が大きく違います。ここでは、自社の対象とする部品や製品の特性から、必要とするワークセンター（前ページ）、システム実行事例、コスト算定基準構築理論の組織的習得水準など、コスト工学図書を活用し技術的、管理的な内容（上段のシステム概説はこちら）について理解を深めます。

◆ワークセンター仕様、構築理論、実行事例、システム操作方法

◆手順3) システムの種類検討

標準コスト見積りシステム・シリーズは、各システムともその活用目的により3種類があります。一つは機能限定されたコスト工学図書シリーズ・付帯の図書付録版及び試行版システム、二つは部品図に対し工程設計を進めたあと、素早く機能的コスト計算見積りを可能にするStandard版システム、三つは製品や装置見積りを可能にするProfessional版システムの3システムが用意されております

①図書付録版・試行版、②Standard版、③Professional版

◆手順4) 図書付録版・試行版システムの導入検討

コスト理論武装やコスト算定学習用・啓蒙に使って見たい、どのようなコスト水準なのか確認したいという場合には、各種コスト工学図書・シリーズにそれぞれ付帯している付録版システムの活用及びコスト理論武装スキルを持ち合わされた方のためには、本サイト上で無償提供されているダウンロード試行版システムが適します。これらは、Standard版システム機能の一部が抜粋構築されたもので、システム仕様や操作性・アウトプット評価ができます。(無償での訪社コンサルティングデモはしておりません)。実際に試算試行した後、Standard版にバージョンアップすることが可能であり、手軽で安価な導入検討の方法です。

◆標準コスト理論武装、仕組みの啓蒙、学習用の図書付録版・試行版

手順5) Standard版システムの導入検討

本格的にコスト見積り業務の効率化を図りたい、売価算定やコストシミュレーション、外製コスト評価計算がすばやくできれば良い、コストダウンに役立つ機能が備わっていれば良い、精度の高い見積りができればよい、購入予算も少ない、というときに、コスト工学図書付録版や試行版のアウトプット評価を経て、導入するのが前提になっております。そうした実行を得てシステム導入するのがコスト管理上ベストですこのシステムは導入運用した後、製品見積り用のProfessional版にバージョンアップすることができます。(有償で導入・定着までのコンサルティングはされております)

◆部品コスト計見積り算システム

◆手順6) Professional版システムの導入検討

本システムは、標準原価計算制度の管理強化実現のためのフロントコストデザイン段階における製品や装置のコストデザイン、コストマネジメントに役立つ機能を持ち合わせたCACシステムに搭載されています。このシステムは、グローバルコスト算定用機能として世界各国のコストテーブルが搭載されており、Standard版導入が前提とされています。(有償で導入・定着までのコンサルティングはされております)

◆製品・装置コスト計算見積り